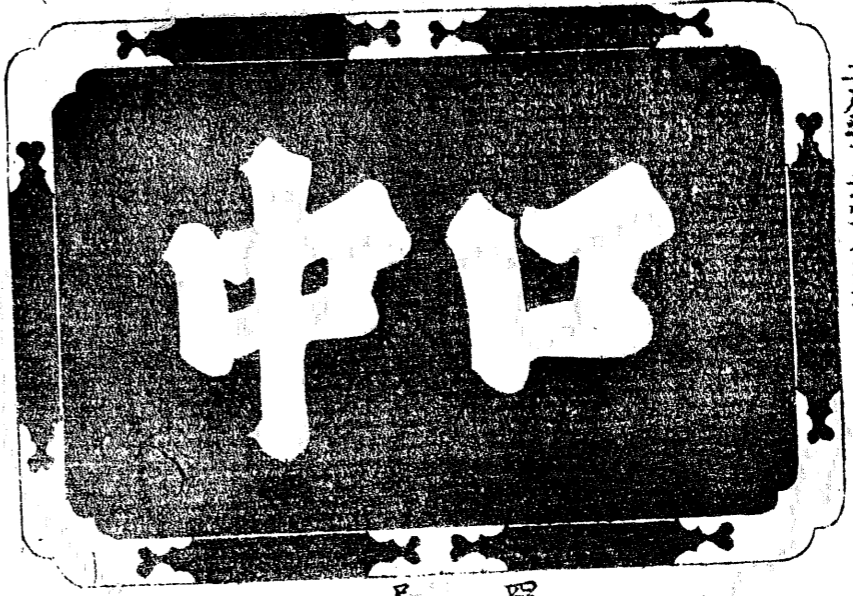


ミセの内子る九きハ大言深者書角子ハ協部安き書ハ書ハ義士ハ
ヤク今親小芝柴井町子あり
協部安き書ハ書ハ義士ハ

九差渡二尺寸 地黒スリ文字白紙
フチキテ夕面朱スリ



二尺九寸 横四尺 文字金箔白紙

尺四

習書諭重云以テ芝口柴井町 兼康祐元が看板口中の二字ハ義士の
協部安き書ハ書ハ義士ハ

横川宗利の書切朱註

一有る証書

右御切朱由信要納は

横川

元禄二年己卯

同書稿

一帯被啓上の生好を打絶の左右を以て其の意を致し居るに寒氣甚
 水原を以て其の内に皆を振除の以て其の意を致し居るに
 書表七月未だ居城に今迄に其の意を致し居るに
 事次亦存懐に不浄を以て其の内に皆を振除の以て其の意を致し居るに
 お覚に於此世に其の意を致し居るに其の礼に照るに其の意を致し居るに
 存けり其の以て其の意を致し居るに及れり其の以て其の意を致し居るに
 勇士ぞうと自慢を存けり其の以て其の意を致し居るに其の礼に照るに
 も亦ひ出し其の以て其の意を致し居るに其の以て其の意を致し居るに
 於死存に傷に其の以て其の意を致し居るに其の以て其の意を致し居るに
 懐に其の以て其の意を致し居るに其の以て其の意を致し居るに

以死出に旅一に其の以て其の意を致し居るに其の以て其の意を致し居るに
 如て其の以て其の意を致し居るに其の以て其の意を致し居るに
 其又其の以て其の意を致し居るに其の以て其の意を致し居るに
 此其の以て其の意を致し居るに其の以て其の意を致し居るに

次才不同

一、大名内務	日主税	吉田忠左	日清左
二、お相左	万歳之矣	日孫九郎	同右
三、日十次郎	日新六	小野十内	日幸左
四、片屋源五右	磯貝十右	早見左	子三左
五、菅谷左	潮田又一	佐松助六	大石左

- 中村助助
- 夏田善右
- 岩高半右
- 武林只七
- 倉持信介
- 不破教右
- 浪尾孫右
- 横川勘平
- 百森助右
- 堀部孫右
- 貝賀孫右
- 杉所十平次
- 毛利小平右
- 木村景右
- 古坂吉右
- 奥田五平介
- 赤地源五
- 日安善右
- 矢所右七
- 村松善右
- 岩野合右
- 三村平右
- 前原伴助
- 矢野合右
- 矢野伴助
- 神崎五平介
- 夏田善右
- 大言源五
- 勝田新右
- 日三右夫
- 茅野如助
- 矢野伴助
- 神崎五平介

以上五十人

此若城存あり小中平右先善切腹仕奉りし事も多し少くも

名無者多しはす

- 中村清右
- 鈴木重八
- 中田平次

此三入は戸長表し一雨に悪戦夜元五沙汰悪者少くも七つて若きりし怒ま
 折平次は去月廿日清右の重八の命に去月廿日之夜入名無者此無不
 及評右の表介仕方介延々といふ方これれは表よきとハ群中
 名無者矢野の介浪尾孫右の極月六日朝名無者

- 小山田庄右
- 田中自衛隊
- 日向名無者

只今この丈夫お見え合四十人

一玄羊夏以龍城之景儀希と脛病ヲ傷悔先非いて大学及善悪ヲ
 中親格と手術ヲいふ一為介方へ伺ひ首を下げ多と東に右同志
 人教にかり名此及し首尾に教言連し迹ル大脛病仕夜注ス

一箱至助左方 井口忠義 杉浦次左方 田川九左方
 酒寄伴左方 本村弥左方 田中下左方 松本新五左方
 橋本治義 井口半彦 土田下左方 生瀬重左方
 大塚辰義 三輪存義 田中代左方 前野新五
 田中平右方 梶中左方 佐藤新五 以上
 吉平丈夫考之内 誠之切之成切考之内 大塚辰義之代左方
 奥那持盛 河村信義 小山源五左方 進藤源平
 里村伴左方 此内子河村信義之代令考及兄元
 平野半平
 此考ハ迹元上之考不取拂也代令 三年有るす之元京都名所比與不
 及評

墨本次左方 吉角之左方 橋川十郎左方 板戸新助
 山上安左方 仁平之左方 吉菅俊左方 多俊左方
 豊田八次夫 各務八左方 陰山和左方 渡部角左方
 川田八左方 久下織左方 井子刺左方 佐藤伴左方
 佐藤之左方 系之左方
 大中通秀細之代左方 又ハ皆指入取服乞中及外也及此教
 お認め有不能詳之考付謹言

土月十一日

横川勘平

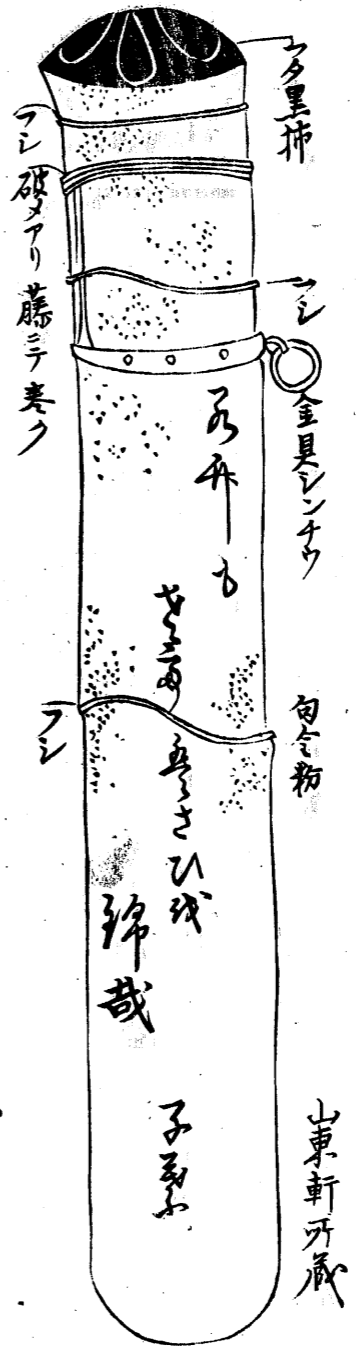
宗利 五

弥三左方 招
 利三左方 招
 小三郎 招
 人三郎

右書筒を播州志穂郡刈屋町子る酒倉少く前川強三左衛門と云ふ
の家子あり

大言子葉烟管筒

胡麻竹長さ八寸五分二寸五分



錦哉
子葉
錦哉
子葉

きんせいのまきまきうらふよ
を世奇詠考云右の烟管筒を大言源五系師子ありし時二つうう
誰の句とつきつけて小野古氏の僕之云ふと云若子與よえ右の
小言粉と云ふこれと修飾一なるや一系師室所河仲氏これを
松菴一々と平が好古の癖あるをゆてこれをやつる案すうふ大言
氏俳諧と水周活権のうり言ひて書吟多一活権が文達葉其角が
尾琴類柑子ホ子これ句ありと云は活権が初の手と活葉と云ふ
房子大言氏の宛名と子葉と云う富義葉帆神崎竹平おお
門人なり

山崎さくちくし
おのれ
李の
子葉

同福蓋の銘

ある人古き福蓋は大方言子葉が深あるを蔵す唐島山人の歌詩あり
詳はこれ教未とある

鼎蓋銘併序

人有贈古鼎蓋一技者道是北條家治世之財不用也古志
種佳匠文之各名忠雄字子葉得之為珍自認其蓋曰何時
酒入不食君与我予讀之慨然不已夫物因人貴此扣鐘卑經
歷已久經子葉手事亦奇矣且子葉四十七士之一忠勇義烈
孰可不稱賢乎此扣不朽愈益知子葉之賢為之作之
材ハねるり

銘文ハ唐藩にて
雙の書あり

面

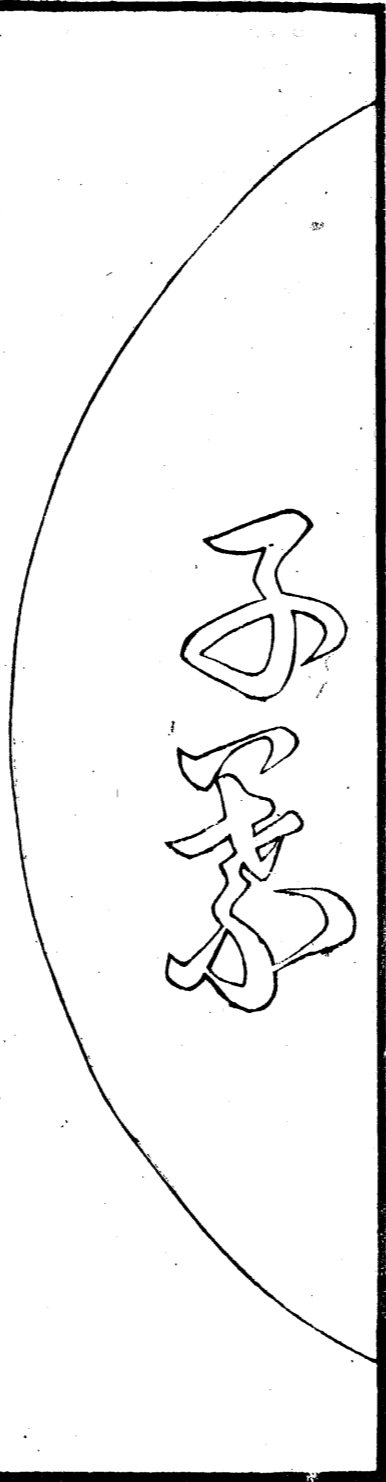
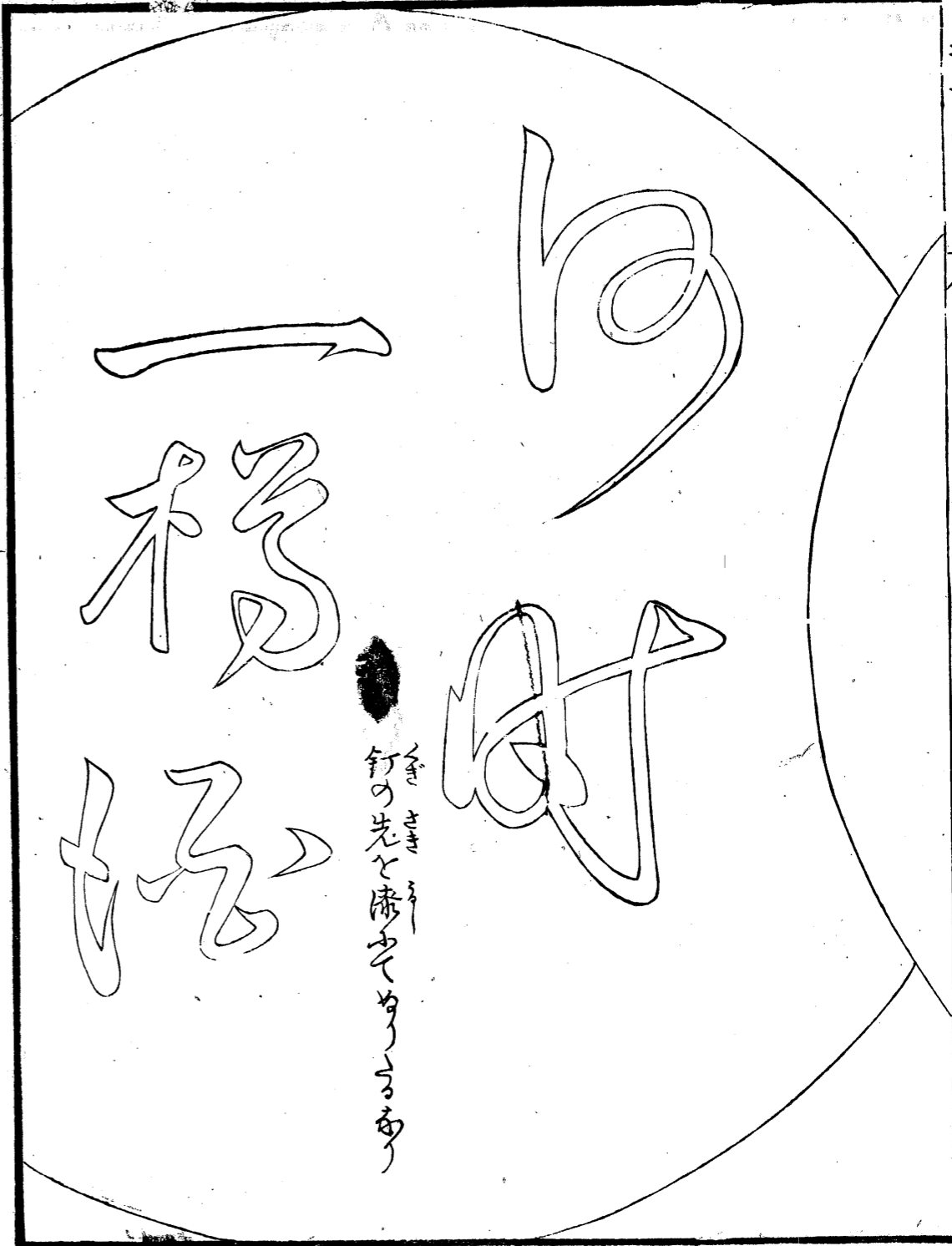
釘

一人

又之
食

子
と
殺

背



東海一男子放蕩東海濱非多懷沙思不見鼓世人吐嗟五斗米蕭
 條漁酒中江城有知己鼎蓋情我貧經歷知幾載温古後為新
 止鼎惟有蓋叔世不沈倫修饑倉耐何容愛為珍至面鏡十字
 於方華如見真大子子子葉此士未穗臣其家夾幕藩氏英雄名絕
 倫烈義方士寧敢知若幸務讓感國士張良推強秦忽怒毛髮
 劫擊劍天地震志氣何以壯忠死如庶生芥昔聞勇士扛鼎纒主賓
 今日吾人會吳器傳此身長物殊重口千鈞仗樞燕市駿壯心

磨不磷 富貴如浮雲 爵禄寧敢陳 尊中酒 教斗沈 碎更幾 春

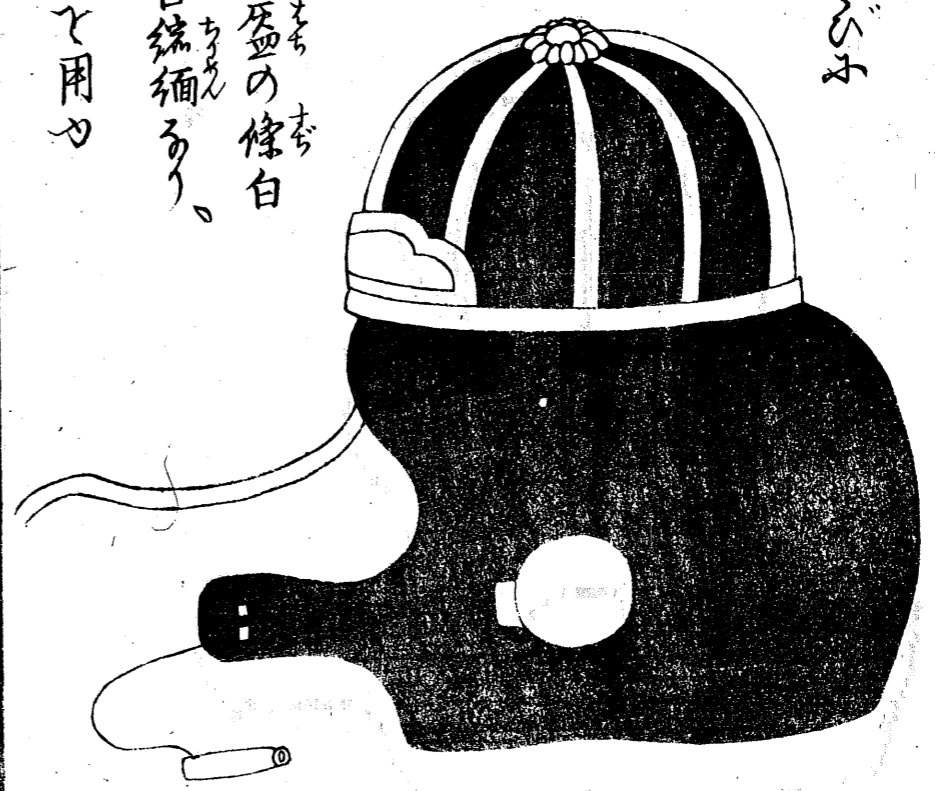
富森正因の警部

富森助名の警部

呼子笛今は戸をるあ

家も傳そ存せりとい

致巾の表ハ黒子ハ革 盃の條白
縮緬てへんの花柄紐ハ白縮緬あり
裏袋つ子きれ氣甲革で用也



按ずる小義士の夜討子美なる服はすべて泉岳寺へ寄附あり納
めて兵器ハ妻拂ひ法會の料とせしとに己子一夕話子なるが如
しさればこの富森が防巾ハ縁有る方へ形見ふありしものと
を抄りたるれより八河十法印 遠見しそて鉄帽と細井彦彦子
贈りしとて二老異傳子見たり富森もなることあり
再あふふこ子載するもので傳来しきよりと修平もあつたといふ
も義臣傳の條子着用の兜巾とその形日くくは歎疑あり紐
縮緬と用也といふをよき疑ひあり良雄もくく兵居子長ト諸士の
着用するところすべく良雄が臣又子出たりされハ器械の製作者
武用の要と為べきと勿論ありし縮緬と用ゆるをゆと掛
富森正因が書菅抄号

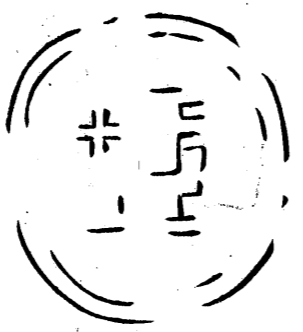
富森助左衛門の公書と佐吉龍子學びてその筆法を傳ふる世に社の子
宣子とて多く傳ふるものあり

富森大酉在元禮

富森華龍敬書

富森華龍敬書

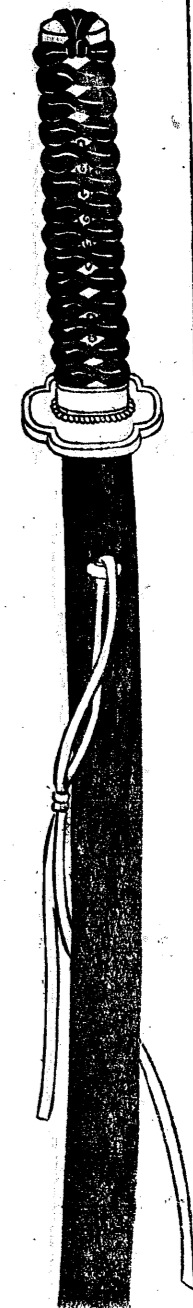
武林只七が印



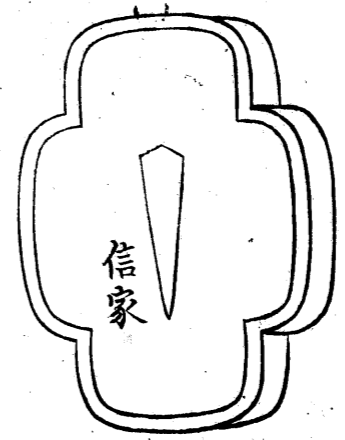
印文 武林只七

寺坂信行の遺物

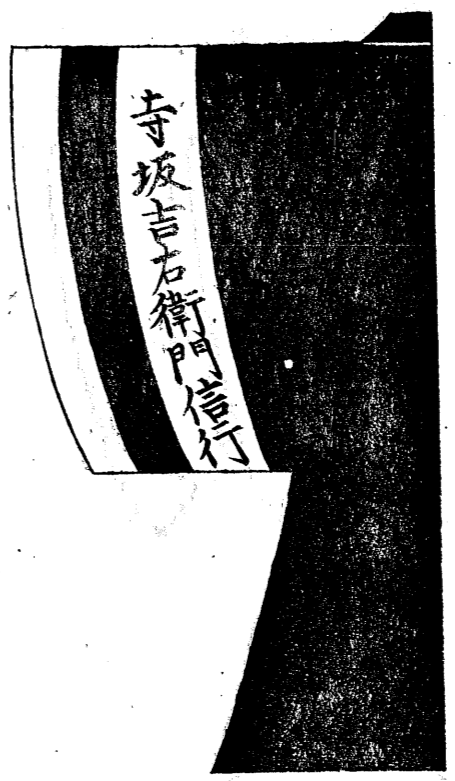
寺坂信行の信行が筆蹟を一夕話に精一を記しつゝこれ子孫今
すてふ山の家ありて遺物教ふと傳へし珍重すべし一に富森氏
古板の表と裏をぬてそのおととんくまらうと摸写し來るとして所
に載す



玉笹 ○



信家



按子義士村入の夜着用の衣服刀劔の類ハ四家ハ以預の付その
家ニ以て新子衣服と名をりて夜討の衣服刀劔ハ自裁と賜ふれ

海にづれよりも子泉岳古小細りらるるこれハ泉岳古より武器を
多くす子細りおんをいふをうらむを官子ヤ一坐を付ひる
小賣を以ては奉の料子せよとの命ありこれ子よりて子子傳へ
ざるを知るる子とて古坂のハ新りきおの金く傳をれるハ最
珍部をす子とてさう

大石良雄肖像

青い人

大石良雄肖像

子子傳と

雲伝

